

〔伊勢紀行〕宮川渡り侍るに明方の月さやかにいと神さびけり、  
わすれめや殘る廿日の月かげをほのみや川の春の曙

〔氏神まうでの記〕渡會の大川に至れり、渡し守めしてわたる。中此ほどは、此わたりより、大和人、紀人、大御神にまうづとて、引もきらず行ちがふ、また東のもさの伊勢にまうで、ついでに大和の國のふりにし所々、紀の高野山などかけてめぐりなどするが、おのもく船にのりおくれじとあらそひの、しる。

〔伊勢路の記〕十六日、雨かぞふるばかりふる、宮川をわたるとて、

またも見ん契をぞおもふ神路山かへりみや川うちわたるにも

〔和爾雅一理〕伊勢國壹志郡

三渡ミワタリ

〔伊勢參宮名所圖會三〕三渡濱曾原村の左の濱、今は三渡川といふにしへ磯いはづたひの道にて、波の引し時を見て往來せし也、是三渡川は後世の名也、昔此ほとり海中にありし時、其磯の波の退く間を見て往來せしなり。

〔いほぬし〕伊勢國にてしほのひたる程に、見わたりといふはまをすぎむとて、夜なかにおきてくるに、道も見えねば、松ばらの中にとまりぬ、さて夜のあけにければ、よをこめていそぎつれども、松の根に枕をしてもあかしつる哉

〔夫木和歌抄〕伊勢みわたり

みわたりのいそわのうつぢなをふかしあさみつしほのからきけふかな

此歌伊勢記云、みわたりと云所あり、鹽干ぬれば、こなたのさきより、かなたのすさきへ、なればみちぬる時は、めぐりて松崎と云所をわたる、しほみちてぬれば、これらをばえわたらで猶遠くめぐりて、いはぶちといふ所をわたる也、しほにしたがひて、渡の三所にかはれば、みわた

鴨長明